

風水害に対する 安全対策

地震

地震対策で大切な事は、いざという時に「人命を守り」「財産を守る」という行動がとれることです。その結果として被害を最小限におさえることになります。したがって、この事を十分に認識して日頃から防災意識をもつことが大切です。

地震にあったら

初期対応と行動

地震を感じたらまず第一に大きさ・強さを判断することが必要であると思われませんが、5つの点に留意して取組んでください。

(1) 落下物から身を守る

教室ではガラスの破損によるけがの危険性があるので机の下に頭を保護するようにもぐり込む。実験・実習室では、机の上の薬品や加熱している液体が身体にかかる恐れがあるので注意する。

(2) 火が出たらすばやく消火

実験・実習中ガス等を使用していたらすばやく火を消す。地震による火災のときは消防力が分散するため出来るだけ初期消火に努めることが重要です。

(3) 先生の指示に従う（あわてて外に飛び出さな）

先生か職員の指示があるまで勝手に教室から飛び出したりしない。その場で指示があるまで待機し、その間に周辺の状況を確認する。

(4) 部屋の出口を確保する

教室の出口に一番近い者は戸を開け避難路を確保する。エレベーターは停電している恐れがあるので利用しない。

(5) 正しい情報に耳を貸せ

たとえ大きな地震でも1分ほど経過すればそれ以上強くなることはまずないと考えてよい。テレビ・ラジオ等で正しい情報に耳を傾けることが大切です。

(6) 負傷者がいるときは救急処置をする。

必要な場合は応援を求め、健康支援センターに担架で負傷者を搬送する。

担架設置場所（3号1階玄関）



地震に備えて

本学でも事務局、学部毎に職員による自衛消防隊が編成されていますが、出火防止や器具の安全措置等次のような点検を行う必要があります。

(1) 火元のまわりは不燃化しておく

(2) 使わない電気器具類はコンセントを抜いておく習慣をつける

(3) 液体燃料を使う設備の安全装置は正しく動作するか

(4) 消火器や屋内消火栓はいつでも使えるようにしているか

(5) 薬品収納棚や容器は床に固定されているか

(6) 実験機械・装置等は十分な強度をもった固定がなされているか。

OA機器の地震対策

パソコンを含むOA機器やAV機器は使用頻度が高いため転倒しやすい場所に置かれている事が多い。少なくとも、ズレ落ち防止や滑りどめシートを敷いたり落下防止金具などを取り付けて事前対策をすることが必要です。そうすることによって地震が起きたとき機器自体を守り、蓄積したデータの保護にもなります。